

第1回三浦半島介護老人保健施設抑制廃止セミナー実施結果報告書

平成19年11月28日

なのはな苑抑制廃止委員会 高橋行幸弘・蓮尾真理

1. 対象 三浦半島にある13の介護老人保健施設
2. 参加施設 9施設（なのはな苑を含む）
3. 参加人数 25名（看護師 6名、介護士 18名、介護支援専門員 1名）
4. 実施日時 平成19年11月21日10時～16時
5. 会場 ウイリング横浜研修センター会議室
6. 参加費 500円（1コインとし気軽に参加できるように配慮）
7. プログラム
 - 1) 講義「神奈川県における身体拘束廃止の取り組み」
講師 神奈川県保健福祉高齢福祉課 荒木宏治様
 - 2) 講義「認知症の人の日常生活の中での困りごとを理解しよう」
講師 介護老人保健施設なのはな苑 看護部長 松浦美知代
 - 3) 演習「事例をもとにみんなで考えよう」
8. 成果
 - 1) 他施設からの研修参加者（アンケートより抜粋）
 - ・ 認知症の知識を深めることができた
 - ・ 日々の業務に追われ、利用者中心の介護を行なっていなかった自分に気づいた
 - ・ 職員の認識を改め、現在行っている抑制について一人ずつ検討して外していきたい
 - ・ 仲間と同じ悩みを共感でき心強かった
 - ・ 研修で学んだことを職場に持ち帰り、伝えたい
 - 2) なのはな苑の研修参加者
 - ・ なのはな苑と他の施設との抑制に対する考え方や対応方法の違いに気づくことができた

- ・ なのはな苑のケアの方法と考え方を自分の言葉で説明する機会を持った
- ・ 利用者中心のケアを実践していなかったことに気づいた
- ・ 身体拘束は利用者の安全のためという名目で、実はケアする側が安心したいためにおこなうものであるということを知った
- ・ 他の施設のスタッフも同じような困りごとを抱えて悩んでいることを知り安心できた

3) 抑制廃止委員会スタッフ

- ・ 研修中の様子やアンケートの内容から研修に参加した方々が抑制廃止の手がかりを得たいという思いがあることを感じ取り、研修会開催の意義を感じた
- ・ 施設間で抑制に対する認識にずれがあり、抑制廃止のためには方法論ではなく意識の転換が必要であることに気づいた

9. 反省点及び解決策

反省点	原因	解決策
研修参加申し込みに対し、確定の連絡をしなかったために幾つかの施設から確認の電話が入った	研修開催の為に必要な作業を把握していなかった	必要な作業を把握し、開催までの作業予定表を作り、それに沿って作業を行っていく
隣のグループの声が気になりグループワークに集中できなかったとの意見があった	グループの座席配置に問題があった	グループの座席配置を調整する
各グループでグループワークの内容にずれが生じた	グループワークの方法について認識のずれがあった	詳細な演習企画書を作成し、目的・目標・方法についての確認を行う
グループワークの質に差が出た	ファシリテータの力量に差がある	ファシリテータの担当者はファシリテーションについて事前に学習する機会を持つ必要がある